

講義名	経済学入門【経済学部】			授業形態	
担当教員	仲間 瑞樹	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

この講義では指定された教科書を利用し、経済学の基本的な考え方を学びます。経済学を学ぶとき、大学での学習内容と現実の境目が見えにくく感じることもあると思います。しかし経済学の考え方を身につけることで、新聞やインターネットニュースで報じられる記事、ニュース、様々な政治家がたてる経済に関するコメントをしっかりと理解でき、経済の動きを自分で把握できるようになります。この講義では需要と供給、市場の働き、政府が市場に政策をもって関与すること、GDP、消費者物価指数、経済成長といった事柄を学びます。この講義を通じて、経済学の考え方を身につけ、現実の経済問題にこれを使ってみる癖を身につけてください。

到達目標

- (1) 基本的な経済学の考え方を、現実の経済問題に適用することができるようになる
- (2) 基本的な経済学の考え方を意識しながら、新聞の経済記事や経済関係の書籍を読むことができるようになる

提出課題

毎回の講義で、課題としての宿題を課します。期限内に提出をしてください。提出方法などは、授業内で説明します。
また、これとは別に教室での期末試験、または期末レポート課題を実施します。これらについては、第1回の授業でアナウンスします。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

宿題の解答をRYUKA Portalで送信します。

評価の基準

提出課題の箇所でも記しているとおり、毎回の講義で、課題としての宿題を課します。期限内に提出をしてください。提出方法などは、授業内で説明します。
また、これとは別に教室での期末試験、または期末レポート課題を実施します。これらについては、第1回の授業でアナウンスします。
宿題(30%)
定期試験(70%)

履修にあたっての注意・助言他

教科書を利用します。講義時には必ず教科書を持参してください。

教科書	.マンキュー入門経済学 第3版.	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	3520	9784492315217
-----	------------------	---------------	---------	------	---------------

参考図書

.ミクロ経済学の第一歩 新版.	安藤至大	有斐閣		9784641150850
.マクロ経済学 入門の「一歩前」から応用まで.	平口良明・稲葉大	有斐閣		9784641150768

その他

毎回の講義で扱う講義ノート、講義スライドはRYUKA Portalで送信します。予習、講義、復習で講義ノート、講義スライドが必要となりますので、受講生の皆さんは講義ノート、講義スライドを必ずダウンロードするなどしてください。

授業計画

- 1 経済学の十大原理
 - 2 経済学からしく考える
 - 3 相互依存と貿易(交易)からの利益
 - 4 市場における需要と供給の作用
 - 5 需要、供給、および政府の政策 価格規制
 - 6 需要、供給、および政府の政策 物品税
 - 7 消費者、生産者、市場の効率性 消費者余剰 生産者余剰
 - 8 消費者、生産者、市場の効率性 市場の効率性 市場の効率性と市場の失敗
 - 9 外部性 外部性と市場の非効率性 外部性に対する公共政策
 - 10 外部性 外部性に対する当事者間による解決法 結論
 - 11 国民所得の測定 経済の所得と支出 国内総生産の測定 GDPの構成要素
 - 12 国民所得の測定 実質GDPと名目GDP GDPは経済厚生の良い尺度か 結論
 - 13 生産費の測定 消費者物価指数
 - 14 生産費の測定 インフレーションの影響に対する経済変数の補正 結論
 - 15 生産と成長 生産性；その役割と決定要因 経済成長と公共政策
- 講義内容は、皆さんの理解度に応じて調整する場合があります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

教科書の予習(1.5時間)
講義ノート、講義スライドの復習(1.5時間)
宿題を解く(1時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この講義は、経済科学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力のうち、特に「知識を応用に変換することができる、論理的思考力を持った人材」との結びつきが強いです。講義で扱うさまざまなトピックを通じて、特に「真実や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき問題を設定することができる（課題発見力）」、「さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を的確・適切に、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる（構想力）」を養うことを目標としています。さらに講義で学んだトピック、考え方を活用して、各種新聞の記事内容を深く理解することも目標とします。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

responを利用する場合は、事前にrespon利用について案内をします。

実務経験の有無及び活用

該当せず

備考

特になし